浜松市生活支援体制づくり協議体（第２層、三方原圏域）　第１回会議　議事録

開催日時	令和５年６月 29 日（木）10 時から 11 時 40 分まで
参加者	委員：20 人（地区７人・事業所７人）　事務局：１人　その他：15 人（浜松市高齢者福祉課：１人、北区長寿保険課：１人、コミュニティ担当：１人、地域包括支援センター三方原：６人、市社協地域支援課：１人、市社協北地区センター：５人）
場所	浜松市みをつくし文化センター　大研修室
内容	１．挨拶　協議体Ｙ会長 ２．自己紹介　新任４人の紹介 ３．協議内容 担い手の確保につながる持続可能な地域づくりを目指して ①令和４年度第３回協議体会議の振り返り　＊R5.2.27 開催議事録参照 ②グーグルマイマップの活用（実際に体験）　CSW 浜松市子どもの居場所 MAP→QR コードをスマートフォンで読み込む ③企業への働きかけ 不二総合コンサルタント株式会社「出前講座」報告　Ｙ会長より 個々の得意分野を活かして地域のボランティア活動に反映し持続可能な福祉社会になればと想い企業訪問活動を続けている。10 数件訪問し１件の依頼。三方原圏域協議体の内容と一致した。リモートによる 30 分講座。その後、障がい者雇用について 30 分講座を行った。参加者からは「このような講演は初めてで、社会福祉について勉強になった」との感想。持続可能にするには、“楽しく・元気に・誰もが参加しやすい環境づくり”が必要。ボランティアを受入側にも「どのような対応が取れるか」「何ができるか」「しっかりした準備が必要ではないか」と感じた。 ＊出前講座資料は第２回協議体会議で提供する ④身近な地域で起きていること 実際に対応できていないこと、地域では男性の参加が少ない 冊子『さあ言おう』抜粋　人生 100 年時代を生き抜く知恵を参照 ◎事例発表 ・市社協北地区センターCSW　社会との関わり、地域の為に何かやりたい ・地域包括支援センター三方原　男性の地域デビューを促すためには ・各施設、事業所から ○第２九重荘（相談員、ケアマネジャー） <u>入所申込について</u> 以前は寝たきりや重度認知症の方が大変多かった。最近は、介護度１か２軽度で普通に会話ができ動きも取れる。強いて言えば失禁レベル。まだ地域で頑張れるかなと思う方の申込が大変増えている。 <u>事例として</u> 普通に会話ができて動きも取れている。地域の方を頼んで毎日病院通いをしている。

	病院からも「毎日来られても」と話がある。助産師をしていた方で息子が一人で看ていたが、追い詰められ「もう少しで虐待をする」と宣言して相談に来た。若い方から高齢の方までコミュニティを増やしていただけると有難い。 当施設でロコモを行っているが、近隣の方が 80 歳過ぎの高齢者が運転する車に乗合いで来ている。若い者として心配なので、移動支援を充実させていただけると大変有難いなと思う。 <u>行政の方にお願い</u> 先日、高齢者に向けて、みをつくしバスについてのアンケートを実施。祖母が「こんな小っちゃい字見えるわけない」と、書かずにお返しした。高齢者から「見えないし書けない」と言う声が結構上がっていた。枠も字も大きめにご検討していただきたい。 ○ケアプランセンターしあわせ（都田地区在宅ケアマネジャー） <u>困りごとのケース</u> 63 歳男性独居者。神経難病を患い歩くのがままならない状況。介護保険でヘルパーを依頼し家のお手伝いをしてもらっている。ごみ出しに困っている。都田地区に入ってくれるヘルパーが少なくごみ出しの曜日に合わせた時間に入れる事業所がありません。今はどうにか自分でやっているが、今後、病気の進行によりできなくなるのもそう先ではない。「近所の方や友人に頼んでみては」と伝えている。なかなか迷惑をかけることに躊躇している状況。少しでも長く、自宅での生活が継続できるようにお手伝いしていきたい。皆様のお力添えをいただきたい。 <u>助けていただいたケース</u> 移動支援が問題になっている受診の足。一人暮らしで弟が受診に付き添っている。弟の入院に伴いタクシーで受診している。近くにバス等の公共交通機関がない。月 1 回の受診程度なら金銭的に負担は少ないが、病気になり毎週受診で大きな負担である。地区社協の方に送迎してもらい助けていただいた。買い物も最近はとくし丸やマックスバリュの移動販売車が地域に入り助かっている。 ○ケアプランセンターひかり（三方原地区在宅ケアマネジャー） 地元が大原町で三方原地区なので、私にとっては自分の問題。地域を作っていくことは自分の老後を支えることなので、ケアマネジャーがそういう働きかけができるなと改めて感じた。今日、話を聞いていて『越境する』会社人間から社会人間は大変。社会がどのように動いているかわからずに働いている方がいっぱいいると思う。私はもうすぐ定年だが、地域社会がどういう風に動いているか知らなかった。協議体に参加して、地区社協や協働センター、まちづくり協議会等を知った。協議体で会社訪問してセミナーをする。素晴らしい取り組み。活躍の場があるので、地域のために何とかしたいと思っていて、埋もれている方をどうやって探し出すかというと、今回、地域包括支援センター三方原でカフェ活動をやりたい。まずは仲間づくり。自分が動ける時から仲間を作って、ちょっと不自由になられた方をお誘いして一緒に活動することでお互いさま。この次は、自分が動けなくなったら動ける人に助けてもらう。私も微力ながらカフェ活動に参加したい。

	○聖隷ケアプランセンター（ケアマネジャー） 奥様の介護をしている旦那さん。会社勤めで地域とのコミュニティがなくて相談する人もいない。息子や娘たちは県外に出ている。そうなるとなかなか相談するところがないと言われる。私たちの事業所には男性ケアマネジャーが 2 名いる。介護をされる方の性別や相談内容等によって、担当する者を変更・対応したりしている。女性のケアマネジャーだと何となく遠慮して言えない。逆に女性のケアマネジャーだったら遠慮なく言える。私たちが考えなくてはいけないことは「何かあったら相談してくださいね」と言う迎え入れる姿勢だけではなくて、私たちから心がけをする姿勢が大事。地域の中で相談する場所（包括、社協、行政等）はある。でも、そこまで行かないといけない。男性がそこまで行こうと考えるか。生活ベースのところに相談コーナーを年に数回でもいいから設けたり、その方たちが使っているサービスのところに、行政の方が一緒に入って相談ができるようにする場所づくりも大事なこと。待つだけでなく、こちら側が出向いて行くことが必要。男性は、成功体験がほしい、得意なことができる、具体的に何をするのかまで分かる、があると参加する。 ◎意見交換 令和 5 年度　浜松市ささえあいポイント事業 K/現在登録者 4000 人。毎年約 100 人の登録者がある。市も色んなところで案内している。受入団体も色々な活動のふり幅があると参加したいと思うので、どうやって増やしていくのかが重要。 Y/補足で、受入団体は沢山ある。介護施設が多い。ボランティアは施設だけではない。地域サロンの数は少ない。出ているのは 2・3 件しかない。新都田のサロンは地域の方のみ。条件を出してるところも多い。地域ボランティアの数は少ないのでもっと増やさないといけない。 M/一緒に活動する時は、知らないことを「知らない」と言ってくれる方が得だと思う。 T/最初の一歩は踏み出しにくいと思う。順番で自治会の役でも回ってくればそのまま入っていけれるのでは。自分からは難しい。周りがどうやって声をかけるか。自分の所もちょっと前までは同じ年代の衆が集まってお酒を飲んだりしたが、それも無くなり、声をかけることもない。この先どうなっていくだろうなと感じている。 H/浜松北地域まちづくり協議会は、どういう訳か男性の方が多い。事業の参加者も男性が多い。組織人に男性が多いと男性の参加が多いのかなと感じている。逆に女性を巻き込みたい。それぞれ会の特色があり、それによって人が集まるのかなと思う。 Y/都田の沢上地区は大きなネットが設置されごみ出し以外の日でも出すことができると思う。 M/ごみ出し日は指定されているから地域と相談した方がいい。何か良い方法があると思う。 N/行政だとアウト。地域の助け合いとしてならやりようがある。情報共有として、明日、細江圏域はごみ出しについて協議をする。 I/ボランティアの再開は始めた。声かけして、来月位から少しづつ入ってもらう予定。

	男性の方へのアプローチで工夫しているのが、『頼りにする』『頼りにされる』を意識している。包括のお話で「仕事と思って来てるよ」のコメントがあったが、来ていただいた時リサーチするのが、どんな仕事をしてたか、どんな生き方をしてきたのか。それを基に話をしたり、対応したりする。居場所になっているのか気にして見ている。 M/ボランティアに関して、この 3 年間で意識が変わった。特に医療系を学ぶ学生は、自分たちの実習の機会を奪われてしまったり、もしも実習に行けてもかなりのリスクを背負い実習している。ボランティアに行って、自分たちが健康体であっても、もしかしたら自分たちが感染源になるんだという、自爆に縛られている。夏祭りや色んな企画が段々と入り始めたが、「そんなところ行って大丈夫なの」「行ってもいいけど高齢者たちは大丈夫なの」と親から止められる。そんな話をよく聞く。私のゼミ生で「ボランティアやりたい」と 1 年生で入ってきた学生も、3 年生・4 年生になっても、1 回も行けていない。促すが「怖い」と。社会的に寛容さが出てこないと、なかなかボランティアは広がっていかないと思う。 Y/8 月フェスティバルを行うが、住民が焼きそば等作っていたが、今年は業者に頼むことにした。以前は常葉大学から 10 人位来ていただいた。自治会のコミュニケーションもなく希薄になる。 S/コロナ 5 類に移行したことに伴い、面会やボランティアの受入も緩和している。高齢者施設は、マスクの着用は身につけなければいけないので中でしている。施設側としては、ボランティアの受入を緩和しているが、まだまだ、利用者や職員とかは施設にウイルスが入ってきたらどうしようと言う恐怖がある。先ほど自爆という言葉があったが、格闘している。ここにきて、9 波とか市内でもインフルエンザとかが猛威をふるっている状況。開放していきたいが、開放していくにはもう少し時間がかかるかなと思いながらやっている。 T/5 月に高齢者実態調査を実施。家庭訪問させていただくと、マスクなしの人、慌ててマスクをする人、様々だった。昔は、訪問すると「まあ上がってってよ」とお茶を出してくれたりしたが、最近は玄関口で対応している。 O/玄関越しのモニターはマスクをとる。相手が出てきて、マスクをしてればマスクをする。 M/昨年までは準備段階で様子をみる感じでやっていた。一部の人がお願いする形で、送迎もやってくれる人と色々だった。同じ人が地域の方と顔見知りになってやっていた。都田地区社協としてやっているので、何か事故があった時怖いなということがあって、今はボランティア募集はしていない。普通だと私のところに「お願いします」と言うルートを作ったつもりだが、今のところは連絡なし。地域の方で「ごみ出しもやりますよ」と言ってやっているところもある。私のところに連絡がないのでわからない。 H/介護予防事業を行っている。来年度、三方原に本部を置き、今の場所は支所になる。本部はケアホーム三方原を中心に行う。三方原地区で認知症カフェを作る。認知症

	の方が通うカフェではなくて、家族で困っている方が気軽に相談できるカフェを予定。市の事業でオレンジチームを作らなければいけないが、包括三方原は大きな組織ではない。公友会で三方原圏域を支援しているので、何かを作るとき民生委員さんの協力もいただけている。その方と一緒にチームオレンジを作りながら地域をみていくということを計画している。来年１月に区が変わっても、包括は今まで通りの対応をします。 K/男性の参加の話が出ていたが、来ている男性が何故来てくれているのかを注目して議論してみるのもいい。今まで関わってない人をどんな風に活動に巻き込んでいくのか。どうやったら今の活動の魅力を感じてもらえるのかの協議をする。担い手の確保については、色んなテーマとか論点が含まれている課題だと感じている。 ＊進行予定表の確認 ＊本日第１回協議体アンケートは、QR コードから想いや感想をお願いしたい。 ４．次回開催日程（案）について　＊後日、正副会長で調整 ５．その他　配布物 ・7/6 地域推進セミナーちらし　　・7/9 フォーラムちらし ・N センター長から台風２号の市社協の動きを説明 6/3 の 11 時、市社協の中に災害対策本部、災害ボランティア本部を立ち上げた。それに基づいて活動していく。その日の午後、細江中川地区が浸水している情報が入った。90 件程職員とボランティアで訪問、声掛けをした。実際活動したのは４件。１件引佐の山奥で土砂災害。重機（県外、北区内の建築業の協力）とボランティアの確保で先週日曜日に片付いた。市社協は地域防災計画で関係団体として、災害ボランティア本部・センターを立ち上げ・運営をする役割がある。施設で細江の園は、全員垂直避難して無事だった。水害被害は施設で片付けを行った。ボランティアセンターは立ち上げずに日常のボランティアセンターの中で災害に起因した活動で対応した。 ６．閉会の言葉　　生活支援体制づくり協議体　M 副会長 貴重な意見を沢山いただき、これからの皆様の自信になると思う。私も会社勤めをしている時、地域のことは無関心で何もわからなかった。自治会の役を受け、その後民生委員を受けることになった。皆様にお世話になった分、今お返ししなくてはという気持ちでやっている。
今後の見通し等	・地域の現状を掴み、どんな方法を用いて地域のボランティア活動者（担い手）を増やしていけれるのか、地域、企業等巻き込みながら推進していく。 ・インターネットを活用し、地域の様子や必要な福祉情報等が簡単に取得・発信できるよう、地域と協働して推進していく。